

2019 年度 A O 選抜 国際関係学部
「グローバル・スタディーズ専攻総合評価方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
グローバル・スタディーズ専攻	33	24	17

2. 試験内容

(1) 第一次選考

出願書類をもとに、書類選考を行いました。なお、「志望理由書および小論文」として、以下の3つのエッセイを課しました。

- ① GS Essay 1: Reason(s) why you want to study in Global Studies Major at Ritsumeikan University (300 words)
- ② GS Essay 2: Write about a past experience that you are proud of and how you intend to apply this experience in Global Studies Major at Ritsumeikan University (300 words)
- ③ GS Essay 3: Select an issue which international society is currently facing, describe its background and trials/efforts to solve it, and state your own opinion about future perspective on the issue (600 words)

(2) 第二次選考

英語による面接試験を行いました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

上記で示した3つのエッセイの意図は以下の通りです。

①は、受験生が、グローバル・スタディーズ専攻で学習する意欲を持ち、グローバル・スタディーズ専攻の育成目標やカリキュラムを理解して出願しているかどうかを判断することが目的です。②は、多文化が融合するグローバル・スタディーズ専攻の学生が作る学びのコミュニティで文化の異なる学生と協働した学びができるかどうか、また多くの課題をこなし、プログラムを修了できる力があるかどうかを判断します。③は、主として受験生が、現代の国際社会の諸問題に対する知的関心を有しているかどうか、必要な知識を有しているかどうか、そして国際問題に取り組む基礎学力、論理力、および英語での文章作成能力を有しているかどうかを判断することが目的です。

(2) 第二次選考

面接選考では、英語による面接を通して、受験生が、①英語による専門科目を履修し、国際関係学の高度な知識を習得していくために十分な英語運用能力（とくにスピーキング能力やリスニング能力）があるかどうか、②提出されたエッセイの内容について、自分の言葉で論理的に説明、議論する基礎学力があるかどうか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、複眼的に捉える力を養い、自らを高めたいという強い意欲があるかどうか、を確かめることを目的としています。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

書類選考では、提出された出願書類を審査しました。エッセイ①については、志望動機が明確に、そして具体的に書かれているかがポイントです。②については、受験生が取り上げた経験が大学の学びにうまく関連されて書かれているかが重要です。③については、国際社会の現代的諸問題についてどのように理解しているか、深く理解し、複眼的に捉えているか、あるいは捉えようとしているか、またそうした問題を解決しようとする思考力が備わっているか、そして、英語で論理的に文章を構成し、意見を表現する力があるかどうかを中心に評価しました。

(2) 第二次選考

国際関係学部のグローバル・スタディーズ専攻への志望動機が明確かどうか、グローバル・スタディーズ専攻の学習において英語による専門科目の履修を行うのに十分な英語運用能力があるか、とくに、質問を正確に理解し、自分の意見を的確に述べる力があるかどうか、大学での学びを支える基礎学力があるか、さらには国際社会のなかで将来活躍できるような適応能力が認められるか、といったポイントを中心に評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

今年度から出願資格としての英語外部資格試験の基準スコアが一部高くなったため、出願者数は減少したものの、出願者の英語力については一定の水準以上のレベルを確保できたと思われれます。そのため、英語力だけでなく、エッセイのなかで、国際関係への関心・知識を有しているか、文献などを参照しながら、自身の考えを、個人的な主張としてではなく、エビデンスをもって多角的かつ客観的に述べることができているかという点で、評価の差が付きましました。

(2) 第二次選考

多くの受験生に海外での滞在経験（留学を含む）があり、スピーキング力も向上しています。国際関係学部のカリキュラムや専門科目について事前に調べ、自身の関心や将来のキャリアパスを、国際関係学部の学びと結びつけて説

明できる受験生も多くいたと思います。一方で、面接におけるエッセイの内容についての質問では、エッセイに書いたこと以上の知識の広がりや、回答が自身のエッセイ内容と一貫していないケースもあり、エッセイのテーマについて、より深い知識と思考を示すことができた受験生が高く評価されました。

6. 次年度受験生へのアドバイス

日頃から新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に眼を向け、その問題について自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近では多くの国のニュースが英語で発信されており、インターネットや携帯電話で読むことができます。特に興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることが重要です。そうすることによって問題を多角的に捉える力が備わります。また、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が国際関係学部でどんな学びをするべきか、国際関係学部での学びが、自らの人生にとってどのような役割を果たすかが明確になるでしょう。

以上